㈳日本技術士会　中部支部　愛知県技術士会発行
愛 知 県 技 術 士 会 会 報

NGAH №56
2003.12. 1

発行人 柴 田 素 伸
編集人 間 瀬 雅 彦
西 脇 正 倫

巻　　頭　　言

小柳卓治

工業系新聞に期待する

新聞は身近な情報源であり、貴重な技術や経済情報をオンタイムで受け取る事ができ、仕事の活力源でもある。私は工業系新聞をとっているが、最近、土日やたまに月曜日が休刊になり、少々、寂しい思いをしている。追記事項だが、工業系新聞はもちろん駅の売店では売っていないし、当然、常滑市の図書館にもない。

工業系新聞は多くの技術情報を提供してくれるばかりでなく、日本の技術の現状を直接映してくれる。特に、日本の技術力が上向きの場合は、以下の様に

・ページ数が極端に多くなる。
・特集が組まれる。
・地方の話題が掲載される。
・中小企業の話題が多くなる。
・ニュース率が高くなる。

・社説に迫力がある。
・経済、経営の話題が相対的に少なくなる。
・人材・技能を多く取り上げる。
・行政への注文が少ない。
・将来の夢が多く掲載される。

などと感じられる。

逆に景気が悪く、技術力が低下傾向になると、上記内容の逆が、多くなり、経済新聞・行政新聞と見間違うばかりである。何にもまして、記事に迫力がなくなるのは残念なことである。もちろんページ数は減り、特集も極端に少なくなり、ニュース率（どうしてもその日に掲載しなければ新鮮味がない記事率）が減少する。他国の羨望記事が多くなる反面、地方の活力を反映する記事は減り、固有技術より管理技術の記事が多くなる。若者への中傷も増える傾向にあり、大手企業の技術が多く宣伝される傾向にある。行政は嫌みたらたら、補助金頼みの紙面が埋め尽くされる。

新聞記事のソース集めには感心させられるが、インターネットやＴＶよりどれだけ早く、興味ある記事を掲載するかが焦点と思う。

新聞は世相を映す鏡であり、不景気な話題になると読む方も憂鬱になってしまうが、世間のムードづくりには欠かせないメディアであり、切抜きが多くて困るような記事満載と景気の牽引役になることを期待している。

チュニジア便り

本川　英佑（国立応用科学技術大学）

久しくご無沙汰をしております。

チュニジアのイスラム教徒は、10 月 27 日から、約１ヶ月間、ラマダンに入りました。私共には初めての体験であります。午前中は、チュニス市内でも通勤や商売など、活気があ

りますが、午後１時過ぎ頃から人々は帰宅をはじめて、3 時頃からタクシーは極端に少なくなり、街は比較的静かになります。日頃は、明るくて朗らかなイスラム教徒も、日の出から日没までは、食事をはじめ、水、タバコも取らず、ひたすら断食しますから、午後からは少々短気になるのでしょうか、我々異教徒も、その積もりで彼らに対応した方が良い様です。女房は、食材などの買い物は午前中に済ませており、日常生活に少々の不便はありますが、近隣に住んでいるチュニジア人は良くして呉れますので有難い事であります。

チュニジアは、2008 年には EU との間で関税の撤廃を目指し、EU 諸国との間に対等貿易が出来るよう格差是正のため、国を挙げ”全産業分野のレベルアップ”「ミザニボ」に取り組んでおり、我が国もこれに技術協力すべく、JICA から調査団がやって来ております。然しながら、戦後復興を成し遂げた我が国の立場から見れば、もっと彼等が、自ら変わろうとする意気込みが欲しい様に感じられます。

我が国の外交は、アメリカ追従でやって来ておりますが、陽気で明るいチュニジア人も、米国のイラク政策には批判的であり、日本大使館からも、人々の前で政治の話に熱を上げるのは差し控えて方がいい、と言われております。チュニジアの人口は 970 万人前後と言われており、在留日本人の数は 300 人前後だそうであります。この頃は中国人が多くなってきた様で、街では、「君はシノワ（中国人）か？」と聞かれる事が多くなっています。通貨単位はディナール DT ですが、１DT は約 90 円であり、地下鉄運賃位でタクシーに乗れます。言葉はアラビア語が基準言語ですが、大部分のチュニジア人がフランス語を話します。英語を話すのは大卒の人達です。従って乗り物、買い物など、一般市民に溶け込んだ生活を送るには、フランス語、アラビア語が必要になります。

チェニスにて

「広場・湖海の士」 No.２０

続：学べない環境

西脇正倫（建設部門）

会報前号、間瀬先生の「広場・湖海の士 №１９」の続きになります。

間瀬先生をこのフィリピン訪問に引っ張り込んだ（？）のは僕なのですが、前号にあるように、その伏線として間瀬先生に同行させていただいた一昨年、昨年の中国行がありました。フィリピンで小学校を訪問したのも、昨年の中国行と関係があります。すでに以前の会報でもご報告しましたが、僕は昨年の中国行の際、西安科技大学付属小学校で環境に関する授業を受け持つ機会に恵まれました。中国語が不如意ゆえ、苦肉の策として黒板に絵を描いて意思の疎通を図るという拙い授業でしたが、大半が大学教員や研究者の子弟である子ども達は、反応も飲み込みもすばらしいものがありました。その思い出が、今年、妻の母国を訪問するにあたり、かの地の学校訪問を思い立たせたわけです。

フィリピン共和国は植民地としての長い歴史を持ち、スペイン王国、アメリカ合衆国、そして日本帝国とその支配者が交代しました。その間、長い独立抗争の歴史を持ちます。第

2 次世界大戦後は独立を勝ちえ、戦後しばらくの間に工業化にも一定の成功をおさめており、決して「何十年前のわが国」といった単純な比較が成立する「後進国」ではありません。しかしミンダナオ島第２の都市であるジェネラルサントス市の郊外においさえ、椰子の葉の屋根の小屋で 200 名以上の子供たちがたった３人の先生のもとで複式教室形式の授業を受けています。また、ジェネラルサントス市内の公立ハイスクールの最大規模のものは 7000 名（！）の生徒を擁しており、その７０％が女子生徒です。規模が大きいのは十代の子供たちの総数に対して教育施設や教師の絶対数が不足しているからであり、男子生徒が少ないのは、彼らの多くが働いて家族の生活を支える必要があるからです。

ここで問題は、かの国が明治時代のわが国ではなく、総体としてより発達した経済をもつ現代国家であり、教育の不足する者が立身出世できる社会ではないことでしょう。にもかかわらず、かの国を初めとする東南アジア諸国、あるいは南北問題で問題となる「南」の国々では、現代と近代、近世が、決して交じり合うことなく混在しているように思われます。なぜ、交じり合えないのか、それは教育の偏在によるところが大きいのでしょう（その意味において短期間で全国民の近代化に成功した明治のわが国は歴史の奇跡です）。

いまだこれら多くの国において中等教育以上は事実上、特定の豊かさをもつ人々の占有物です。そして教育と富がつながっている以上、持たぬ多くの人々には高等教育は無縁のものとならざるを得ず、教育水準は固定化されます。教育水準の差は社会への参加意識の差や人生観にもつながります。中国のエリート児童も、椰子の屋根の下の子供たちも、目の輝きや笑顔はまったく同じ。しかしその将来には大きな開きがありそうです。

「教育の大衆化」、これこそがこれらの国々の課題であると僕は考えます。技術士たる僕たちは、その立場と「倫理（？）」から何かできるのではないでしょうか。寺子屋、移動図書館、国際サマースクール・・・、そのための手段を最近、かなり真剣に考えています。ぜひとも皆さんのアイデアを賜りたいものとも思っております。

お知らせコーナー

●「ふれあい技術士プラザ」開催のご案内

下記日程、要領にて「ふれあい技術士プラザ」を開催いたしますので、ご案内いたします。多数のご参加を期待しております。

1．日　時：平成 16 年 2 月 21 日（土）
　13：30～18：30
2．場　所：花車ビル ５F 会議室（花車ビル北館：地下鉄桜通線国際センター３番出口すぐ）
3．次　第
◆情報交換会：13：40～15：10
　参加者全員による業務・自己紹介と愛知県技術士会への要望・アドバイス等をお話下さい（一人３分以内、自己紹介レジメの配布が必要な方は A4 サイズで 30 部程度ご準備ください）。
◆基調講演：15：20～16：20
　演題（仮）「日本産業の活性化と技術士へ

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]
代表幹事 柴田素伸 〒492－8485 稲沢市中之庄町行燈18－86
TEL･FAX 0587－32－4758 Email:shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

の期待」
名古屋工業大学大学院　助教授：工学博士　小竹 暢隆（おだけ のぶたか）先生
◆各ワーキンググループの活動紹介：16：20～17：20
◆懇親会：17：30～18：15
（場所：同じ会場を予定しています。）
◆会　費：会員 2,000 円（会員外 3,000 円）（討論会:1,000 円、懇親会:1,000 円）

☆ 当日会場受付にてお支払い頂きます
◆参加申込み:
２月１３日までに事務局へ＜出来るだけ FAX か E メールで＞
★ 日本技術士会中部支部内　　愛知県技術士会［松田事務局次長］宛
〒450-0002　名古屋市中村区名駅 5-4-14　花車ビル北館 6F
(e-mail) g-chubu@asahi-net.email.ne.jp　(FAX) 052-533-1305
★参加申込み時に、愛知県技術士会への要望・アドバイス等（例会、見学会、研究発表会等も含む）関心事、ご質問等を添えてお願いします
◆定　員：　50 名（先着順）
◆ＣＰＤ生涯教育：３時間に相当
◆この件のお問合せ:
上記の事務局または下記担当幹事まで E メールお願いします
担当幹事：櫻井
fwie3964@mb.infoweb.ne.jp
太田（隆）
tohta@beige.ocn.ne.jp
伊藤
YB1Y-ITU@asahi-net.or.jp

●会員異動情報

前回の会報発信から今回までの入会・退会者は以下のとおりです。
〔入会者（敬称略）〕
山口昇三（建設部門）11 月５日
〔退会者（敬称略）〕
石井信雄（機械部門）11 月

●編集後記

11 月の末に島根県の隠岐諸島の道後、西郷町に出張しました。例年、この時期の日本海はすでに冬そのものに荒れているそうで、七類港から道後の西郷港までの 2 時間 30 分間、ひたすら揺られもまれて行かねばならないそうです。

しかし今年は 11 月の末だというのに油のように滑らかな海面（波高 1.5m）で、まったく揺られませんでした。

道後の島内も紅葉こそ終わっていたものの、落葉の木々の間に青空が映え、美しい晩秋の風情でした。

帰路は波が穏やかで水中翼船が出航でき、1 時間ほどの海路はバスよりも静か、船中、山陰からの同行者が水平線を眺めつつつぶやいた「今年はずいぶんと穏やかな秋だ」との言葉が印象に残りました。

たしかに今年は穏やかな秋、暖かな冬、と思い、そのような編集後記をイメージしていたら、師走の声を聞くや否や、一気の冷え込み、冬らしい冬になりました。

会報の発信がもう少し早ければトンチンカンな後書きとなるところでした。編集遅れの怪我の功名とはもちろん、申しません。遅れは編集員 N の責任であります。

さて、昨冬の SARS 騒ぎのおかげで今冬は

インフルエンザの予防接種希望者が多く、ワクチンが不足気味。友人の開業医の話では、行政からワクチン残量と返還可能数の問い合わせがきているとか。師走のこれからが冬本番、皆様、くれぐれもご自愛くださいますように。

（編集委員 N）

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]
代表幹事 柴田素伸 〒492－8485 稲沢市中之庄町行燈18－86
TEL･FAX 0587－32－4758 Email:shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp